

はじめの一步

服装の着こなしでわかる？

進路指導主事 田野辺智光

中学部の職場見学と高等部の後期現場実習が終わりました。

中学部の皆さんは、福祉サービス事業所を見学し、少しの時間ですが仕事内容も体験し「学校卒業後の生活について」学んできました。保護者の皆様も一緒に見学し、午後の進路教室(相談支援員さんとの地域別学習会)に参加されたことで、地域にある施設の様子やお子さんの課題、目標など将来の姿を考えるよい機会になったと思います。

高等部の皆さんは、最長4週間という長期の実習に取り組みました。初めての現場実習に臨んだ1年生。社会人になる現実を目の当たりにして、新たな課題がたくさん見えてきました。今後の取組によってますますの成長が望まれます。前回の課題に挑んだ2年生。確実にステップアップしている姿が見られました。そして、卒業後の進路実現に向けて取り組んだ3年生。成長が認められ、4月から社会人になる喜びとあと3か月で卒業を迎える寂しさとが複雑に交じり合う様子が見られました。どの段階でも、子どもたちは様々な人たちと出会い、関わり合いながら学び、成長していくのだなぁと改めて思う実習でした。

さて、今回は服装の話題。数年前のある施設でのことです。施設長さんが帰り際に利用者さん一人一人の服装の着こなしをチェック！襟元やシャツのめくれやはみ出しなどを直してあげて「さよなら、また明日ね！」と送り出していました。そして一言「街を歩いていると、服装の着こなしで何となくわかりますよね。変な人だなあ、障害者かなあって…。障害があってもきちんとしてるなあって見てもらいたいじゃないですか。だから、着こなしをきちんとする習慣が大事なんです。」

とても大事な、大事な話だと思いました。難しいことなんて何も無いように思われる毎日のことが、実は「自立と社会参加」のためにものすごく大事なことで、大事なことにも関わらずあまりにも普段のことなので見落とされているのではないかと気付かされました。以前、進路教室の話題で「企業の障害者支援で困っていること」の第1位に「清潔に関する支援」が挙げられましたが、これも習慣が大事という話題でした。

お子さんの「自立と社会参加」に向けて、ごくありふれた日常の姿や習慣を見直してみてください。あいさつやお辞儀に始まる礼儀、態度を含め、社会に出てその姿を見られるのはお子さん自身ですから…。職場体験や現場実習は、このようなことにも気付かせてもらえる機会です。生徒ばかりでなく大人も学ぶことの多い実習でした。

今回は、高等部保護者の皆様が書いてくださった実習アンケートを紹介します。実習を通して気付いたお子さんの成長や保護者自身が学んだこと、今後への思いなどを紹介させていただきます。様々な問題に共感したり、今後の参考になったりするかと思います。どうぞ、じっくりとお読みください。



Q 1 今回の実習でお子さんにどんな成長が見られましたか？



- 早寝早起きを心がけるようになったと思います。
- 校内実習で声が大きくなったと褒められました。
- 1週間、初めての場所で仕事を続けることができたことが一番の成長だと感じます。また、持ち物チェックも以前よりもしっかりするようになった気がします。
- 初めての現場実習で生活介護の事業所に行きました。一人で1週間過ごせたことは大きな成果です。
- バリ取りにチャレンジできました。素晴らしい。体もたくさん動かし、クッキーも買いに行くことができて驚きました。週末も体調の波はありますが、春と比べると大変落ち着いて過ごしています。
- 現場実習では、学校との違いに戸惑いながらも次第に慣れてきて作業が早くできるようになりました。それを褒められるとやはり嬉しいのか、家でも機嫌良く過ごしていました。できることが増えて行くのは本人も嬉しいことのように思いました。
- 誰も知らない大人の世界でずっと緊張しっぱなしのようで、毎日「疲れた～」と言いながら帰って来ました。とりあえず遅刻せず、休まずに通えたことは良かったと思います。
- 「相手を見て話す」ことが苦手だったのですが、今回の実習が終わる頃にはだいぶできるようになったとのことで嬉しく思いました。
- 実習日誌に、その日ががんばったことや反省点を書くことができて良かったです。
- 実習初日は少し緊張していた様子でしたが、“実習＝お仕事”と理解し、真剣に取り組んでいました。
- バスに乗り遅れたことをきっかけに、朝の準備が早くなり、家も早く出て何事も早め早めの行動ができるようになりました。
- 路線バスの乗り継ぎをしておの通勤に挑戦しました。時間を守らないと大変なことになると意識できました。運賃の支払いもその場で両替をして支払うなど勉強になりました。小銭の確認も大切で、金銭感覚が身に付いたと思います。
- 満員の電車通勤が嫌なようでしたが少しずつ慣れたようで、周りの様子も見られるような余裕が生まれたようです。体調が悪かったら無理をせず、自分できちんと報告できました。
- 牛舎の手伝いの時、少し休憩をした後で、自分から「もう仕事しよう」と言って仕事を始めるようになりました。
- 今回は4週間の実習で、長いようで短く、あっと言う間という感じでした。その中で成長した所は、実習先で分からないことを聞き直したりしたこと。家では自分が使った弁当箱を洗ったり、言われなくても洗濯をしていたりしたことがすごいと感じました。
- 実習先で学んだことを家でも手伝いをしながらやってくれるようになりました。
- 今回の実習では「～さんがいやだ」とか「～さんがうるさい」とか言いませんでした。また、担当の方の注意に対して家に帰ってきてから「怒られた・・・」と書いていたのですが、翌日からは注意されたところに気を付けてやっていたようで、成長したと思います。



- 社員寮で生活し、実習させていただきました。一人部屋だったので、朝寝坊しないように時間を見て規則正しく生活する力を身に付けました。
- 社員寮に入れてもらって実習をさせていただきました。寮から職場まで15～20分歩いて行くのですが、時間を見

ながら遅刻することなく通勤できました。寮でも、一人で洗濯することができました。自分からあいさつできるようになったことも嬉しかったです。

- 「卒業したら社会人」という意識があったのか、これまでとは表情ややる気が違っていました。「時間内に作業が終わらなくて悔しい、明日は頑張る」と前向きな姿勢も見られました。

Q 2 実習を通して、保護者の方が学んだことや感じたことをお聞かせください。



- 校内実習でできていたことも、知らない人だらけの現場に行くとほぼ白紙になってしまい一から始めないといけないんだということを改めて実感しました。何事もできる中での下準備(見学等)が必要だと思いました。
- 案外人見知りだと気付きました。短期間だと言わなければならないことも言えない感があったので、1ヶ月3ヶ月と続けてやっと我が子らしさが出せるようになるのではないかと思いました。とにかくその場に慣れることができないと何も始まらない感じがしました。
- 将来社会に出て働くという意識がまだまだなんだと思いました。、まだ仕方のないことなのですが、やはり慣れない環境の中でもなるべく早く慣れ、あいさつや返事などで大きな声が出せるようになってほしいと思いました。
- 朝の支度、家に帰ってから自分の物の片付けや、洗濯物をたたむ手伝いなど自分で全部やっていました。(親が声を掛けることはありましたが)実習期間中の方が他のこともいろいろとしっかりできているように感じました。
- コンビニでお弁当の作り方を一人でもできるように分かりやすく指導していただき、自信を付けていただきました。ありがたい一言です。貴重な経験になりました。
- 本人がやり甲斐をもって取り組めることを見つけてあげることが大切だと改めて感じました。
- なかなか口には出しませんが、自分なりに考えて行動しているんだなぁと思いました。本人が考えているようにやらせてあげることも大切だと思いました。
- 将来は家で生活し、事業所へは送迎バスで通うという生活が良いかと思いました。
- 公共交通を利用する大変さを感じました。1本乗り遅れば次は1時間以上バスがない魚沼市でどう行動範囲を広げることができるのか・・・と気が遠くなりました。
- 家庭と学校と実習先の関係が大切だと感じました。
- 今回の現場実習は2回目だったのですが、仕事や人の名前を覚えていたり、周りの人達に進んでコミュニケーションをとるなどとても安心できる環境だったのが本当に良かったです。
- 卒業後は、家から仕事に通わせたいと考えています。他の生徒さんたちは、一人暮らしと試してみたいと思うかもしれませんが、母親としての希望は自分の側で見守って行きたいと考えています。



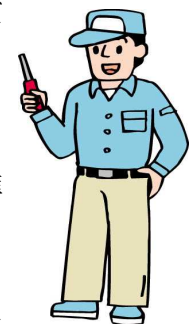
- 社員寮で生活しながらの実習期間中に初雪が降りました。防寒着の準備や長靴の準備など、一人暮らしになったら全部自分でしなければなりません。季節に合わせて服装の着替えや必要な物を準備、支度する感覚を身に付けなければ・・・と思いました。普段着、通勤服、作業着、寝間着というようにTPO(時間・場所・目的)に合わせて服装を替える意識が大事だと思いました。

○社員寮で一人暮らしをしながら実習させていただきましたが、親が心配しているほど大変ではないように思いました。楽しそうに、一人暮らし体験していました。子どものがんばってっている姿を見て、親もがんばらないといけないと思いました。

**Q 3 今回の実習で気付かれたこと
(次回の実習についてや社会参加について
思うことなど)をお聞かせください。**



- 今回は、前期と同じ所での実習でいろいろなことを本人も学んだと思います。次回の実習があれば違う場所で、違う仕事も学んでみたいと思います。
- 少しずつではありますが、実習を重ねる度に成長していたんだなぁと改めて感じました。
- 本人も保護者も初めての現場実習だったのでわからないことだらけでした。特に現場実習をさせていただいた事業所の方にはご迷惑をおかけしたと思います。一つ一つのステップをしっかり踏んで行かなければと思います。
- 今回の実習で学んだことを生かせるように、次回の実習でもがんばってほしいと思っています。
- 次回の実習は、公共交通機関を使わずに通える所が良いかなと思います。
- 実習先を選ぶにあたり、事業所ごとに仕事内容、環境、送迎の有無など一覧になっているものがあるとありがたいなと感じました。
- どこが本人に合うのかよくわかりません。実習に行けば行った所を「ここがいい！」と毎回言うので…。ある意味、今まで行った実習先がみんな恵まれていたのだと思います。
- 臨機応変に対応してくださり感謝しております。私も柔軟な対応ができるように心がけていきたいと思いました。
- 今回実習先に私物を持って行ってしまいました、荷物(リュックの中)の確認は家を出る直前にしようと思いました。
- 製造の仕事を数多くこなすことで自信を付けてほしいと思います。
- 職人技的な仕事も、やらせていただきました。実習の受け入れをしていたことに感謝です。自分で選んだデザインの刺繍をしたTシャツを作らせていただいたり、プリントの印刷など、普段は絶対にできない体験をさせていただきました。ありがとうございました。
- 縫製会社さんで実習し、親切丁寧な指導でミシンを習いTシャツを製作させていただきました。社長さんのから「ものづくりは“手に職”の世界です。昨今ではサービス業、IT産業が盛んで昔ながらのものづくりの世界に入る若者が少ないのですが、“若いうちに身に付けた感覚は一生もの”ですので、このような経験ができる実習は将来的にも良いと思います。学校でいろいろな職場実習ができて幸せですね」と良いお話をいただきました。



○家の子のような子は普通の子と違うのだから…と甘く見ている所があり、基本的なことができなくても大目に見てほしいなと思っていたので「言葉遣いが悪い」「態度が悪い」と厳しい指摘に少しビックリしました。しかし、実際に社会に出て働くためにはそういうことがとても大事で、そこをきちんと指導していただけたことはとても貴重な経験ができたなぁと感じ、感謝しています。

○家の子どもは(社会参加なんて)無理だろうと思っていましたが、できる範囲を決めつけるのではなく社会参加できる環境を整えてあげることが、本人の力を伸ばすことや日々の生活に生き甲斐を見つけていくことにつながると改めて感じました。たくさんの方の力を借りしながらですが、本人が実習にやりがいをもって参加することができ、親として嬉しく思いました。

(保護者の方も皆様、実習アンケートのご協力くださりまして
たいへんありがとうございました。)

みなさん、2017年はどんな年でしたか？
お身体を大事に過ごされ、希望をもって新しい年を
お迎えください。



『進路教室』のご案内

今年度の進路教室も残りあと2回となりました。

1月と2月は同じ内容です。雪の季節ですのでご都合の良い方に参加してください。内容は、「進路先決定に至るまでの手続き」や「障害者基礎年金」、「同窓会」の話などを含め、卒業生の生活から学びます。支援の成功事例や困難事例などから、その違いはどこでどのように生まれるのかを考えたいと思います。

日時、場所は下記の通りです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時 : 第7回 1月19日(金) 午後1時30分 ~ 3時
第8回 2月23日(金) 〃
場所 : 小出特別支援学校プレイルーム

県立小出特別支援学校 進路指導部 (田野辺智光)
TEL 025-792-5412 FAX 025-792-9270

* 一歩、一歩、少しずつ、
今の自分にできることに
一生懸命、取り組もう！



